



自然の解説者

秋季号 [第 57 号] 2017 年 10 月 9 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3
櫻井昭寛 方

電話・Fax 0274-42-2726

<http://inpuri.web.fc2.com/>

編集：総務企画部会

群馬県緑化センターのご紹介

群馬県緑化センター所長 佐藤 博

群馬県緑化センターは、1983年（昭和58年）に開設され、今年で34年目を迎えました。また、1998年（平成10年）には隣接するエリアに、平地林としての県立森林公園「おうら創造の森」を造成し、2013年（平成25年）からは「緑化センター附属見本園」と名称を変え、センターと一体的に管理しています。

当センターは、県民の皆様に対して緑化思想の普及啓発、緑化技術の指導、森林環境教育等を実施するとともに、市町村の緑化関係業務担当者や緑化関係業界の皆様に対して、緑化情報の提供や技術支援を実施することを主な目的として運営しています。

メインとなる業務は、各種の緑化講座や森林楽習講座の開催です。身近に緑があることは、生活に潤いと安らぎを与えてくれます。一方で緑は生き物ですから、健全な状態で維持管理するには、手間をかけ愛情を注ぐことが必要です。そこで、講座では年間を通して、それぞれの時期にやってみたい庭木の手入れ方法や、果樹や野菜の育て方などをわかりやすく解説して、それぞれの植物が健全に生育できるような技術を身につけていただくためのお手伝いができるよう努めています。

講座は、基本となる「緑化講座」、日曜日に開催する「日曜緑化講座」、出向いて行う「出張緑化講座」があり、広い地域の多くの方が参加しやすいように工夫しています。

これらの講座の講師は、樹木医や造園関係の技術者、それぞれ得意とする植物の研究者など、技術と専門知識をお持ちの方々ですので、参加者からは毎回好評をいただいております。また、森林環境教育の視点から開催する「森林楽習講座」では、附属見本園をフィールドとして、樹木の生態のおもしろさや森林の仕組みを学んだり、木の実や枝などで工作をしたり、カメラを使って森の風景を切り取ったりと、いろいろな切り口から楽しんでもらっています。この講座は年間計画に組み込んであるものに加え、小学校等から依頼を受けて開催するものもあります。駐車場からすぐ森に入れるという利便性が有るので多くの方に、このフィールドをご利用していただきたいと思っています。



森林楽習講座の様子



校庭の樹木③

文明開化のシンボルとされたヒマラヤスギ

顧問 亀井 健一

太田市生品中学校を訪れたときのことで。校庭に並ぶ大きなヒマラヤスギに思わず見入ってしまいました。この木は、学校、公園などに多い樹木です。多く植えられた理由など話題を探ってみましょう。

本種は、樹形が端正な円錐形で、天を衝くような高木になり、大変目立ちます。樹高25m、高さ1.3mで直径1mを越えるぐらいになり、広い敷地に似合います。しかし、落枝や倒木を心配し、枝や幹を詰められ、多くの木は本来の樹形が失われています。

原産地は、ヒマラヤ山脈北西部からアフガニスタン東部で、英語名はHimalayan Cedarです。これをヒマラヤスギと訳したのは適切ではありません。スギ科ではなくマツ科であることは、葉や球果を見れば一目瞭然です。原産地では建築用材として使われ、材から取れる精油は、芳香があり、ヒンドゥー教では聖なる木として崇拝されています。

ヒマラヤスギは、マツと同じように雌雄同株、雌雄異花の常緑針葉樹です。花期は10～11月で、雄花（雄花の花序）は長さ2～5cmのキツネの尾のようで、多量の花粉を放出します。放出が終わると枯れて落ちます。受粉した松ぼっくり状の雌花は、翌年の秋以降に成熟した球果になります。球果は非常に大きく、長さ6～13cmの卵形です。やがて球果は種子を抱く種鱗が軸から離れて、ばらばらに落下します。なお、雄花と球果は大きいので、それぞれの時期に、少し注意して見るとすぐにわかります。

上原敬二著『樹木大図説』によると、明治12年（1879年）頃に、横浜の外国人居留地に住むイギリス人のヘンリー・ブルックは、輸入した種子から育てた苗木を横浜の山手居留地一帯に植えています。これが、日本最初のヒマラヤスギです。続いて皇居に献上し、新宿御苑に多数提供しています。先日、新宿御苑で最も大きい木を選んで測ったところ、高さ1.3mで幹周約4.7m（直径約1.5m）ありました。樹齢140年ほどでこれだけの大きさに成長しています。文明開化のシンボルのように思われ、公園、学校、役場など公共施設に多数植えられたとのことです。欧化政策を進める明治政府の後押しがあったようです。



生品中学校のヒマラヤスギ



雄花



球果

<活動報告>**前橋市委託①「森を歩いて生きものを見つけよう！クラフトも作ろう！」** 7月23日(日)

おおさる山乃家 受託協力部会

夏休みに入ったことで多くの家族が参加し、参加者は、13家族34名、協会員12名でした。午前中は屋内でクラフト作り、午後は山乃家の周辺で生き物の自然観察を楽しみました。

クラフトは大澤講師の指導で親子が夢中になって作り、素晴らしい作品になりました。

午後は3班に分かれ、浦野、登坂、田中の各講師に付いて外を回りながら昆虫やナメクジ、アリ、花、葉っぱなど大人では気が付かないほど沢山の生き物を発見していました。(登坂)

自然体験事業①「木工を楽しもう！」 7月30日(日) あかぎ木の家 受託協力部会

外は小雨でしたが、親子38名、協会員13名が参加し、木の椅子作りをしました。図面を見ながら、金槌を使って組み立て、午前中にはおおかた形ができました。午後にヤスリをかけて仕上げました。(櫻井陽子)

自然体験事業②「赤城の自然を楽しもう！」 8月10日(木) 赤城覚満淵周辺 受託協力部会

覚満淵周辺をフィールドに、赤城少年自然の家と共催で、小学生から社会人まで53名の参加者と協会員16名が6班に分かれ、6つの課題(ササの役割、光と植物、森の構成、シカ、コケ、プランクトン)箇所を巡る自然体験学習を行いました。専門知識豊富な8名の講師(亀井・大谷・関端・浦野・櫻井・須藤・田中・関)の、子ども達から発言を引き出す工夫をとりばめた解説に、大人の参加者や引率した協会員までも熱心に耳を傾けていました。(大澤)

前橋委託②「川に入って生き物を調べよう！水鉄砲を作って遊ぼう！」 8月13日(日)

おおさる山乃家 受託協力部会

午前中はA班 土屋清喜講師、B班 須藤友治講師、C班 田中和夫講師の3班に分かれて、親子で協力しながら石を持上げたり砂をすくって水生昆虫の採取をしました。カワゲラ類が一番多く水質階級1、きれいな水の河川と判定出来ました。段々採取のコツが掴めると楽しくてなかなか川から上がれない参加者もいました。午後は吉田卓一講師、五十嵐由記夫講師、大澤ひかる講師の指導で水鉄砲作りをしました。ピストン棒にスポンジと布を被せたコ糸で調整しながら固定、竹筒に穴をあけ水鉄砲が出来上がると毎年レベルアップしていく的当てゲームに挑戦！びしょ濡れで落とされた的を戻す協会員。ガンガン的を狙う子供達は大興奮。夏の水遊びに大満足の日でした。15家族38名、協会員14名が参加しました。(五十嵐ルリ子)

前橋委託③「森の中でゲームを楽しもう！思い出のしおりも作ろう！」 8月20日(日)

おおさる山乃家 受託協力部会

霧雨の中での開始でしたが、いつの間にか霧雨も止み、広場での「コウモリとガ」に子供達は興奮。耳をすませ森の音を聞く「音いくつ」や「フィールドビンゴ」をしました。午後は木の葉や草の葉を使い、しおりを作りました。子供達もお母さん達も楽しそうに作っていました。一般13名、協会員8名が参加しました。(吉田幸一)

観音山ファミリーパーク「キッズ自然観察会」 7月29日(土) 観音山FP 総務企画部会

関端理事長を講師に、小学生9名大人17名が参加しました。あいにくの雨でしたが、フィールドビンゴで楽しく自然観察し、屋内でセミの雌雄の判定の仕方やセミの体の仕組みなどを学びました。(大畠)

観音山ファミリーパーク「自然観察会」 観音山FP 総務企画部会

8月19日(土) 田中講師、参加者13名。類似植物(サンショウとイヌザンショウ、ムラサキシキブとヤブムラサキ、タマゴダケとキタマゴダケ)の観察や多数の昆虫の観察も出来ました。

9月30日(土) 亀井講師、参加者14名。ドングリのスケッチ、ドングリに穴をあけるハイイロチョッキリの話、ドングリの発芽の仕方を学び、アサギマダラの観察もしました。(大畠)

桜の里整備 桜の里 インプリの森部会

7月8日(土) 参加者15名。今年第一回の整備なので、安全祈願祭、新たに購入した簡易研磨機の試運転、初めて参加した会員のための研修を行いました。

7月22日(土) 参加者12名。湿度が高く、猛暑のため体調に気づかい午前中で終了しました。

8月12日(土) 参加者10名。ササ林の中は蒸し暑く、汗びっしょりでした。

8月26日(土) 参加者11名。各人の作業エリアがほぼ決まっているので個人のペースで休憩を取りながら作業をしました。

9月9日(土) 参加者11名。松枯れの倒木をチェーンソーで処理しながら奥の方へと順調に作業が進みました。

9月23日(土) 参加者7名。ササが濡れて重く、また土で汚れていた為、作業着も汚れたが、午後にも整備し作業は捗りました。(吉本)



緑の窓

癒しの森への思い

第1期生 六本木 太

皆様より、「癒しの森はその後いかがですか」と聞かれます。思っていて下さると思うと有り難く嬉しい限りです。そこで、最近の森の様子を少しお知らせしたいと思います。

25aの土地に、それぞれの思いの中で植えた100本以上の木々も幾本か枯れましたが、元気に育っております。最も花の量が多いと言われるハクウンボク、中間山地で大きな働きをしている先行樹種のアサガラ、健康のシンボル、メグスリノキ、赤城南面で最も野鳥が好むと言うナツハゼ、薬酒として欠くことの出来ないサルナシ・マタタビ・カリン・ザクロ等が在ります。ヤマブドウで作るブドウ汁は食卓には欠かせません。豆柿は丸干しにして一年中頂いております。ミカン類も、一本でダンボール箱一箱も採れる木が三本にもなりました。

11種類植えたブルーベリーも豊作で、生食とジャムにして頂いております。仲間の集まりでは、イチジクをその場でジャムにして、自家製パンで美味しく頂きました。赤く実った二個のリンゴは、食べるというよりも見て楽しんでます。入り口には、筑波山で自然石の灯籠を見つけ据え付けました。森の中には、東屋とともに樹齢250年と言われている樺の大木を立て、癒しの森のプレートを付けてメインポールとしました。

この森は、薬万能の世にあつて、安心・安全の森であることを願い、除草剤・消毒剤は一切使っておりません。年5回の下草刈も大変ですが、健康法としては最高のようです。

妻はお茶を持っては東屋に来て楽しんでおります。野鳥たちが遊びに来るのも、薬を使っていないことを知っているからかもしれません。妻はその野鳥たちを眺めながら、「庭先の癒しの森の野鳥たち、何を囀る恋の季節か」と詠んでおります。

私もすばらしい緑、美味しい空気、多くの果物、遊びに来る野鳥たち等々、多くの恵みを与えてくれる「癒しの森」で生きる喜びを感じながら余生を送りたいと思っております。



豆知識

雑草の話 7

理事長 関端 孝雄

前回に続いて、形態の似ている雑草を取り上げます。県立観音山ファミリーパークの自然の森へ入ると、つる植物のヤマイモ科で雌雄異株のオニドコロ(①、図1)とタチドコロ(②、図2)が通路脇に現れます。①はトコロとも云いますが、何とか両者を立ち所に分かる方法はないものかとじっくり観察。②では、茎が初め直立して伸びるからと言いますが、もう少し茎の下方を見ると葉が4、5枚輪生する特徴があります。

互生するハート型の葉について：①は、薄くて全縁で綺麗な円心形をしており、噛んでみるととても苦いです。②は、堅くて側方中央部がややくびれ、そのしわ寄せとしてか縁に波状の鋸歯があります。

雄花について：①は、7～8月に開花し、花軸から数個をつけた小花に分かれていて、花柄があります。花弁の先が気持ち尖った淡緑色、雄しべは6本です。②は、6～7月に開花、まばらに分枝した穂状花序で、花柄はありません。花弁の先が丸く黄緑色、雄しべは3本が葯持ちの本物で、他の3本は小さな仮雄しべです。(図3)

蒴果(図1)には3枚の羽がありその中に楕円形の種子が入っています。その種子について：①は種子の片方だけ鬼の角のような翼があり、②は周囲にぐるりと翼があります。枯死しても実が何時までも茎に着いているので、良い特徴です。僅かな違いで気がつかないものです。

同じ仲間に、カエデドコロ(③)やキクバドコロ(モミジドコロ)(④)等いくつかあります。両者も葉の形が似ていますが、③の葉には毛があり葉柄の基部に1対の小突起があります。オタマジャクシが後足を生み出すかのように。④の葉には毛がなく側裂片の先がより尖っています。

本家のヤマノイモ(⑤)はジネンジョとも呼ばれ中国原産と言われるナガイモ(⑥)とそっくりです。両者、雑草ではないのですが同属なので記します。共に雌雄異株で、先の尖った葉を対生に着け葉腋にはむかご(珠芽・図4)を着けます。また、地中には茎とも根とも異なるいも(担根体)が毎年新たに形成されます。美味しく頂けるにしても掘り出すのに苦労します。雄花の花序は直立し白い球のような花を着け、6枚の花弁はほとんど開きません。つるである茎について：⑤は緑色。⑥は稜があり、葉柄と共に紫色のことが多い。⑥の葉は時々3輪生になります。厚く光沢があつて基部が耳のように張り出しています。畑から抜け出さなければ判りが良いのですが。



図1. オニドコロ



図2. タチドコロ



図3. タチドコロの雄花



図4. ヤマノイモのむかご

すり鉢を押さえる子も揺れ とろろ出来

斉藤 一洗

＜群馬の自然災害＞第3回 1,500年前の眠りから覚めた鎧を着た古墳人

群馬地球温暖化防止活動推進センター長 中島 啓治

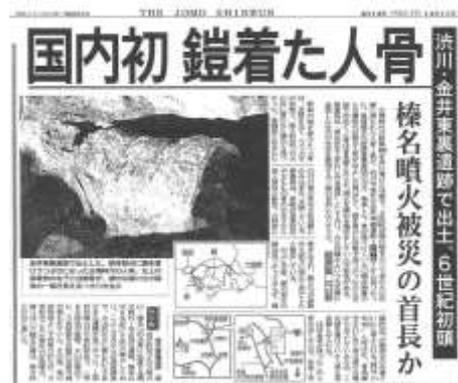
「国内初、2012年11月19日榛名山北東麓で人骨発見！！」

渋川市金井東裏遺跡は、榛名山の北東麓を通過して吾妻方面から長野県へ抜ける上信越自動車道の工事に伴い調査された遺跡です。榛名山の東から北東麓にかけての一带は、6世紀初頭と6世紀中頃の榛名山大規模噴火の真っ只中の地域で、これらに伴う火山噴出物層の下には、多くの遺跡が存在することが予測されていました。

この遺跡は、給源火口のあった榛名山二ツ岳から北東方向に約8.5kmの距離にあります。榛名山北東麓の扇状地末端に位置し、東側は吾妻川によって開析された崖が形成されています。崖上の扇状地平坦部に集落と畑と古墳が存在します。

平成24年(2012)の11月19日、この遺跡で甲(よろい)を着た状態の男性が、6世紀の初めの火山噴火の直撃を受け、その犠牲になって屋外に倒れた状態で発見されました。甲を来た古墳人の装着していたものは、5世紀後半から6世紀初頭の関東地方において100m級の前方後円墳の副葬品の中に認められる品々で、渋川地域における上位階層の有力者として位置づけられ、遺構・遺物に朝鮮半島色が濃い点から、渡来系の人が関わっていると考えられています。

この時期、榛名山は2回の大爆発を起こしました。6世紀初頭の1回目の爆発で火山灰が降り、その後、北東麓から南東麓にかけて火砕流が流れ下りました。灰色や小豆色のようなものが火山灰・火砕流で、50cmほどあります。2回目の爆発は6世紀中頃で、2mちかくの軽石が降下しました。1回目の爆発でほとんど壊滅的な打撃を受けており、甲を着た男性、成人女性、赤ちゃん、幼児、甲、矛、鉄鏃、人の足跡、馬の蹄、畑、溝、道、祭祀、竪穴、平地、掘立柱等、の遺構群が出てきました。始めの降灰の時は人が歩き回っていますが、その後に火砕流が西から東にやってきました。甲の人物は火砕流に向かうようにうつ伏せになっています。火山灰でパックされたことにより、非常に良好な状態で情報が残っていました。歯のエナメル質の分析から、成人の男女は長野県伊那谷周辺で幼少期を過ごした可能性が出ています。火砕流の恐ろしさをあらためて教えてくれる遺跡です。



＜協会の声＞

針金虫に会った！

第13期生 原田 和子

8月の「大人のための自然教室」講座の『水生昆虫について』に普及部会スタッフとして参加しました。受講者と一緒にあかぎ木の家近くの白川に入って「水生昆虫」の採集です。ところが浅瀬でくねくねと動いて、小さくて黒くて細長い紐みたいなものを見つけました、ありゃ、何だこりゃ？けったいなヤツ！

太さ1ミリの半分、長さ20センチぐらい(写真)。近くで講師が「寄生虫だよ、針金虫というんだ」と教えてくれました。私、こういう「怪虫」、大好きなんです。摘まみ上げたら絡まってきて、また水中に戻したら1本にほぐれました。家に帰って調べました。幼虫の頃、別な水生昆虫に食べられて、その昆虫を運よくカマキリが食べてくれて、そのお腹の中で一生を送るんだって。たまたま脱出して水中に居たのは産卵のため、てことは雄雌があるんだよね。わかんない、ゴメンね。うちのおじいちゃんは「小さい頃、カマキリ取ってお腹をコロコロすると針金虫が出てきたもんだ〜！」と言ってます。もう1度会いたい！！いや〜実に面白い！



昆虫に限らず自然に関する事をもっともっと知りたい！でも昆虫が一番好き。皆様、これからも宜しくお願いします。

＜協会が実施する事業・研修会等＞

実施日	内容	会場
平成29年10月8日(日)	藤岡市民フェスティバル	藤岡市総合学習センター
平成29年10月14日(土)	観音山ファミリーパーク「自然観察会」	観音山ファミリーパーク
平成29年10月22日(日)	会員研修④赤城山シカ食害対策ネット巻き	赤城山厚生団地
平成29年11月5日(日)	自然体験事業④「竹炭焼きとクラフト」	インプリ広場(富士見)
平成29年11月11日(土)・12日(日)	覚満淵ササ刈り作戦(11日刈り払い、12日搬出)	赤城山覚満淵
平成29年11月25日(土)・26日(日)	会員研修⑤ 炭焼き	インプリ広場(富士見)
平成29年11月25日(土)	観音山ファミリーパーク「自然観察会」	観音山ファミリーパーク
平成29年12月10日(日)	「大人のための自然教室」修了式	群馬県緑化センター
平成29年10月14日(土)、28日(土)、11月18日(土)、25日(土)	桜の里整備	桜の里

＜編集後記＞ 今年の夏は雨や曇りの日ばかりだったように思います。異常気象だったようですが、これがこれからたびたび起これば普通の現象になりますね。原因の追及は専門家にお任せするとして、私たちは起こりうる幅広い変化に対応する力を付ける必要がありますね。「起こる可能性のあることは起こる」です。(宇多川)